

地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度からすべての市立学校で学校評議員制度を導入し、学校外の評議員が学校運営に関し意見を述べ、校長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施しております。

また、平成19年6月の学校教育法、同年10月の学校教育法施行規則の改正により、学校評価に関しては、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられました。このことを受けて、各学校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題について、その改善を図っております。

ここに、平成28年度の各学校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」取組の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各学校園では、この報告書を参考にするとともに、学校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営の改善に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるようお願いします。

平成29年3月
奈良市教育委員会

- 平成28年度は329名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。

〔奈良市立学校数：幼稚園28園 小学校46校、 中学校21校、 高等学校1校〕

評議員の置かれている学校実数

幼稚園28園 小学校38校、中学校16校、小中学校1校、高等学校1校

* アンケート集計では、小中学校は中学校、高等学校とあわせて集計しています。

内容

1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】	2
【設置されている学校評議員数】	2
【学校評議員の再任の割合】	3
【校長が学校評議員に求めた意見例】 [意見を求めた学校園数の割合]	3
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】	4
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】	4

2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】	5
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】	5
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】	5
【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】	6
【学校関係者評価の実施について】	7

3、学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】	8
【学校評価をすすめる上での課題】	9
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】	10
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】	11

4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】	12
--	----

1、学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考
	人数	割合	
PTA関係	97人	29%	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	57人	17%	主任児童委員、児童委員
自治会関係	45人	14%	
学校支援	30人	9%	地域教育協議会、地域ボランティア
教職経験者	22人	7%	
少年指導協議会関係	18人	5%	人権教育協議会、安全推進協議会など
社会福祉協議会関係	18人	5%	
公民館・施設長関係	13人	4%	
地域活動関係	11人	4%	
各種協議会	9人	3%	
一般	8人	3%	
万年青年	1人	0%	

【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（校数）					合計
	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	
5人	3園	12校	3校		1校	19校園
4人	10園	19校	9校	1校		39校園
3人	15園	7校	4校			26校園
2人						0校園
合計（校園数）	28園	38校	16校	1校	1校	84校園
総人数	100名	157名	63名	4名	5名	329名

【学校評議員の再任の割合】

再任割合	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	合計
人数(人)	27人	53人	19人	2人	5人	106人
割合(%)	27%	34%	30%	50%	100%	32%

【校園長が学校評議員に求めた意見例】〔意見を求めた学校数の割合〕

「地域の連携・協力に関すること」

- [幼:96.4% 小:94.9% 中高:100% 全体:97.1%]
- ・地域で決める学校予算・放課後子ども教室等について
 - ・学校行事、学習活動、環境整備等の取組と(授業支援も含めた)参加協力について
 - ・地域人材を生かした地域の教育力の発掘について(学校だよりの回覧等)
 - ・生徒会及び地域スローガンの啓発
 - ・学校支援ボランティアや地域の方々、施設などとの連携のあり方について

「幼児児童生徒の安全に関すること」

- [幼:78.6% 小:92.3% 中高:66.7% 全体:79.2%]
- ・通学路の安全対策について(登下校の見守り体制の強化・充実)
 - ・登下校のマナー、自転車通学生の安全運転、防災訓練の実施内容、避難所としての運営計画の作成について
 - ・運動会、サミットなど行事の安全管理について
 - ・スマホ活用に関わる弊害について

「学校の目標としていることに関すること」

- [幼:82.1% 小:76.9% 中高:77.8% 全体:78.9%]
- ・小中一貫教育の課題について
 - ・目指す学校像、子ども像について。
 - ・学校評価に基づいて学校教育活動を行っているかについて
 - ・教育目標、経営方針と学校ビジョンについて
 - ・社会に出てたくましく生きる力の基礎を作れているかどうか

「学校に対する評価に関すること」

- [幼:96.4% 小:66.7% 中高:66.7% 全体:76.6%]
- ・学校評価の基準、分析について
 - ・学校の実情に合わせた取組について
 - ・学校評価アンケート結果の公表について
 - ・学校行事に参加しての感想
 - ・地域に開かれた学校であること

以下、「教育課程・教育内容に関すること」(全体 65.1%)、「学校施設・設備に関すること」(全体:56.4%)、「生徒指導に関すること」(全体:56.1%)と続いています。

【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができる。	60%	62%	69%	52%	57%	74%
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	40%	38%	31%	45%	36%	25%

【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ・教職員と地域の方々との親睦会が実現できた。
- ・登下校時の安全確保について全体指導や学級指導に活かされた。
- ・地域と連携した取組について前年度の取組を、めあてや体制など再度点検しながら実施している。
- ・HPや学校便り、学習参観などの場を活用して実践を紹介する取組を進めている。
- ・耐震工事の実施内容を伝え、安心していただいた。
- ・地域人材をクラブ活動や教科学習に活用するようになった。
- ・体育館の女子トイレに洋式を作った。
- ・地域の行事への積極的な参加が増えた。
- ・学校便り、ふるさと納税制度を活用した母校応援寄附へのお知らせなどを自治会を通して回覧し、ホームページなどとともに学校の取組を発信できた。
- ・横断歩道の塗り直しなど、登下校の安全の確保ができた。
- ・校内の清掃ボランティア活動が実施できた。
- ・収穫祭や地域交流会に参加してもらうことで園教育・幼児理解を得た。
- ・基本的習慣の確立に向けて取組に成果を上げることができた。
- ・ゲストティーチャーを活用している。

各学校で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善につながります。P D C A サイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや地域の方々で共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、非常に有効な方法となります。

2、学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	79%	88%	87%	91%	86%	82%
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	94%	93%	91%	96%	88%	89%

〔平成 28 年度内訳（校内委員会等の組織している。／全教職員が参加している。）〕

幼：75%/86% 小：89%/96% 中高：82%/86%〕

【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

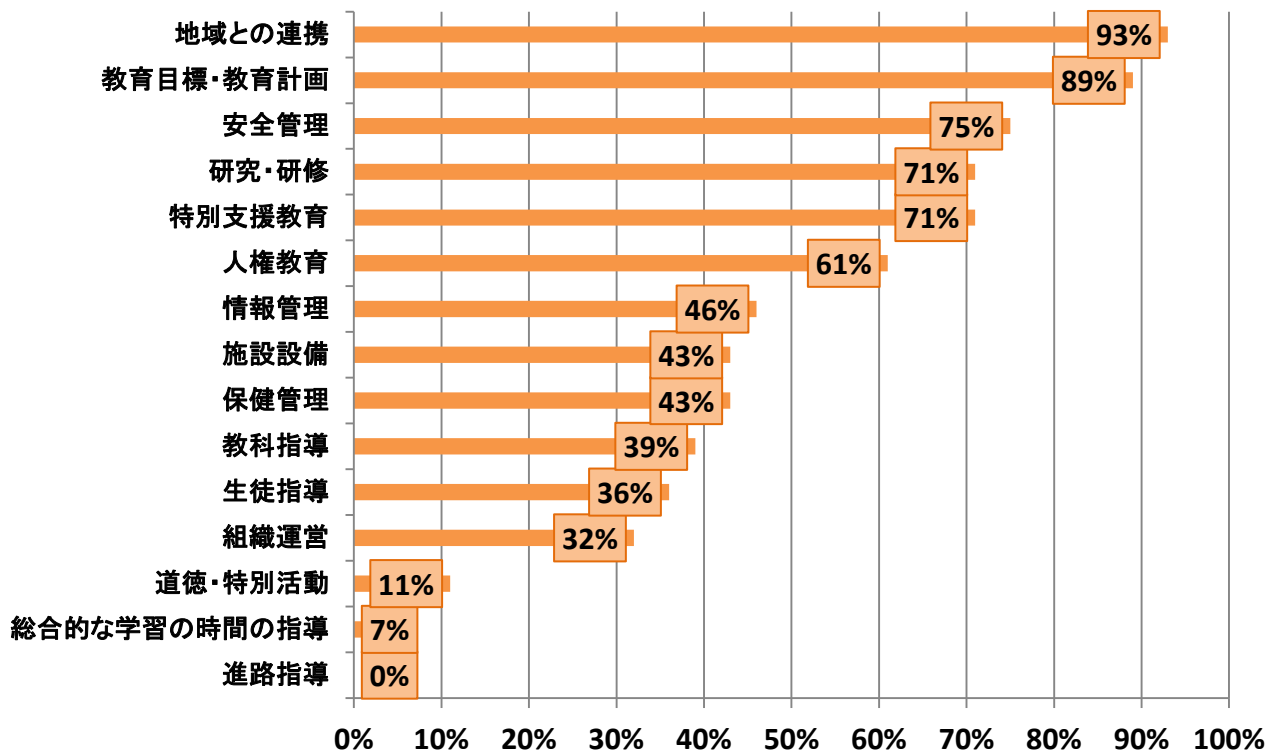
学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	96%	80%	68%	81%
学校評価関係教職員で行っている。	4%	13%	18%	12%
主に担当者が行っている。	0%	8%	14%	7%

【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

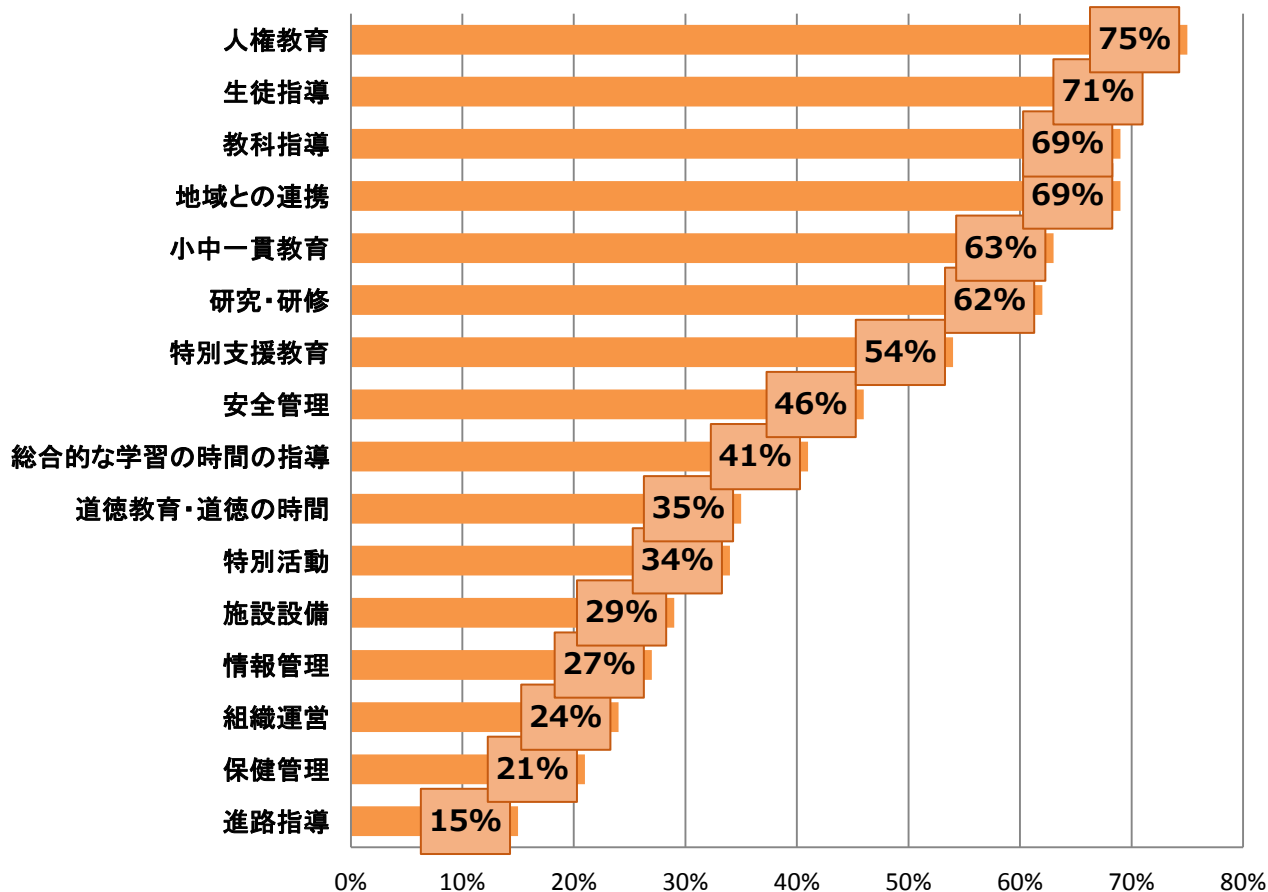
	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
年度末に 1 回実施	46%	24%	36%	35%
年度末以外に 1 回実施	46%	74%	55%	58%
年 2 回（1 学期末、2 学期末）	8%	0%	9%	6%
その他（行事ごと等）	0%	2%	0%	1%

【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】

幼稚園



小学校・中学校・小中学校・高等学校



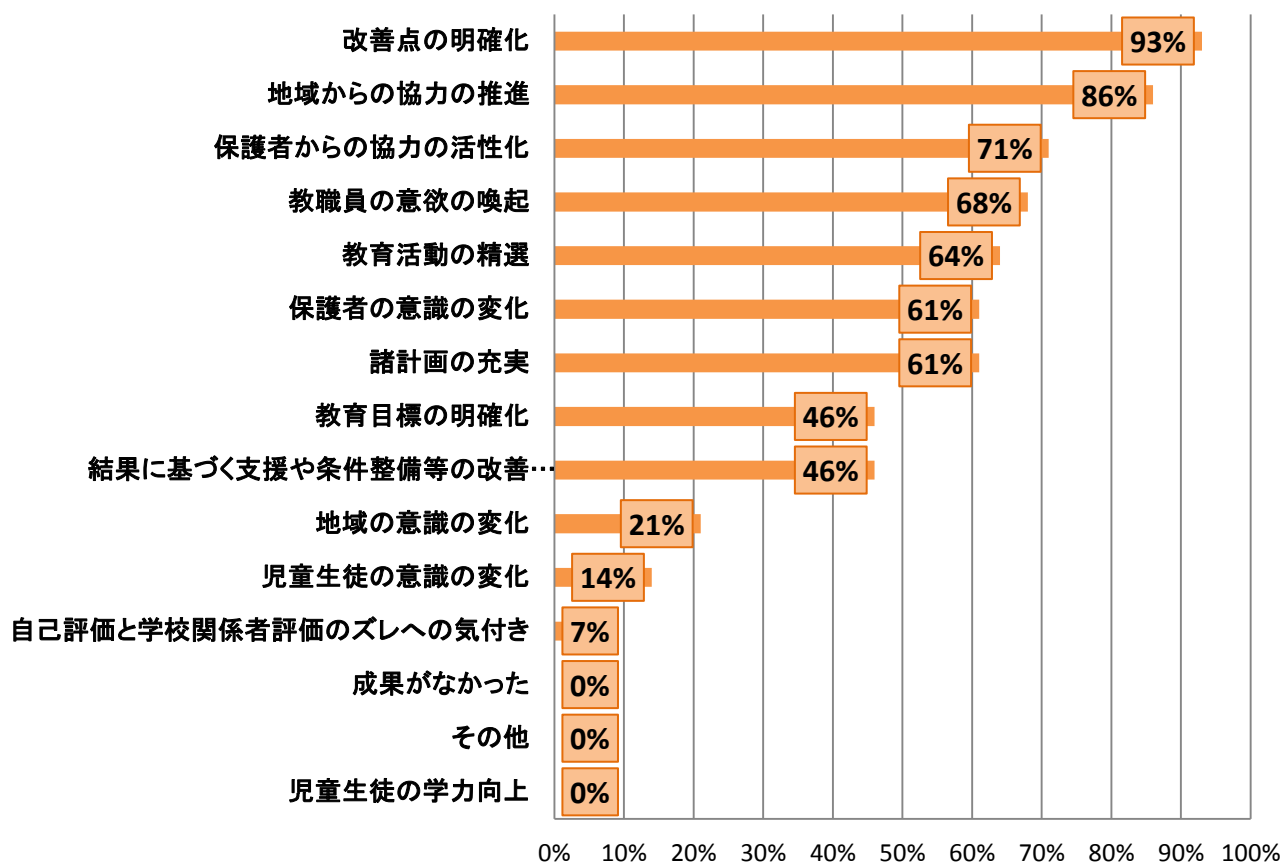
【学校関係者評価の実施について】

	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	68%	74%	82%	75%
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	89%	94%	77%	87%
評価はアンケート形式で回答を求めている。	63%	41%	36%	47%
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	11%	35%	27%	24%

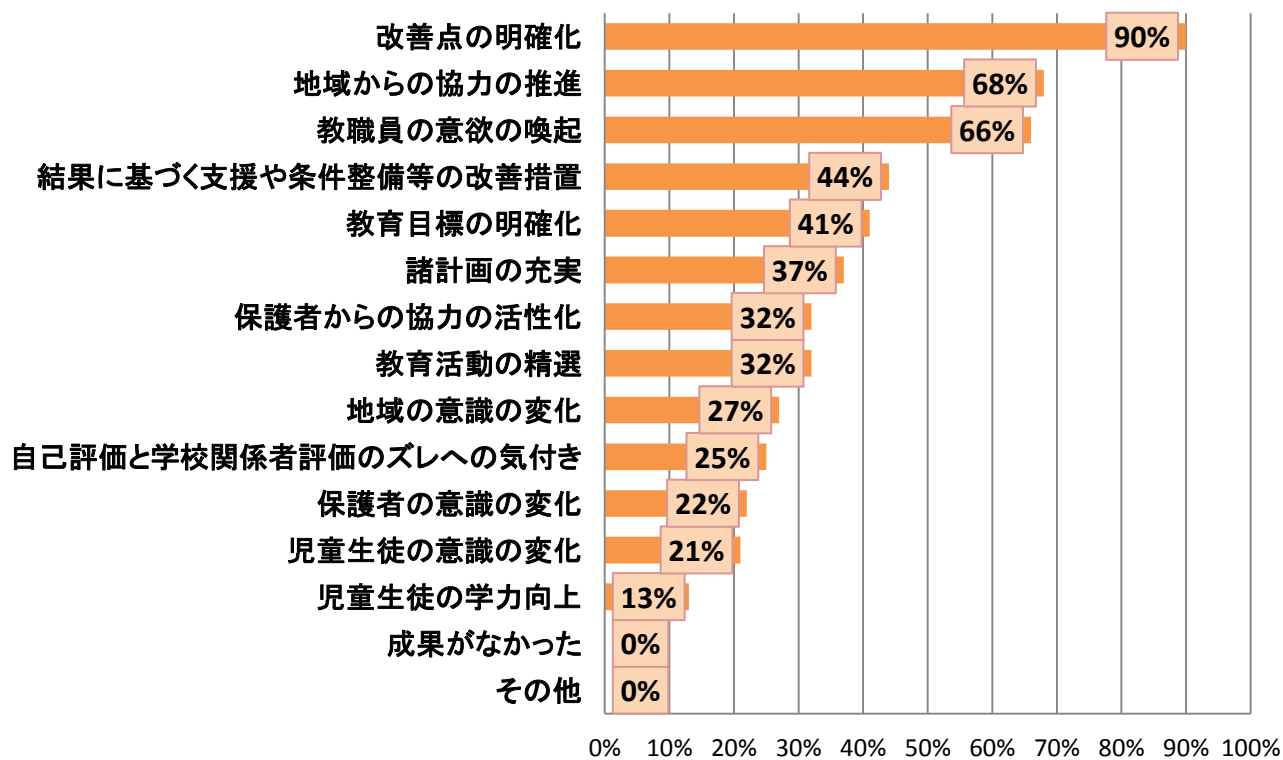
3、学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】

幼稚園

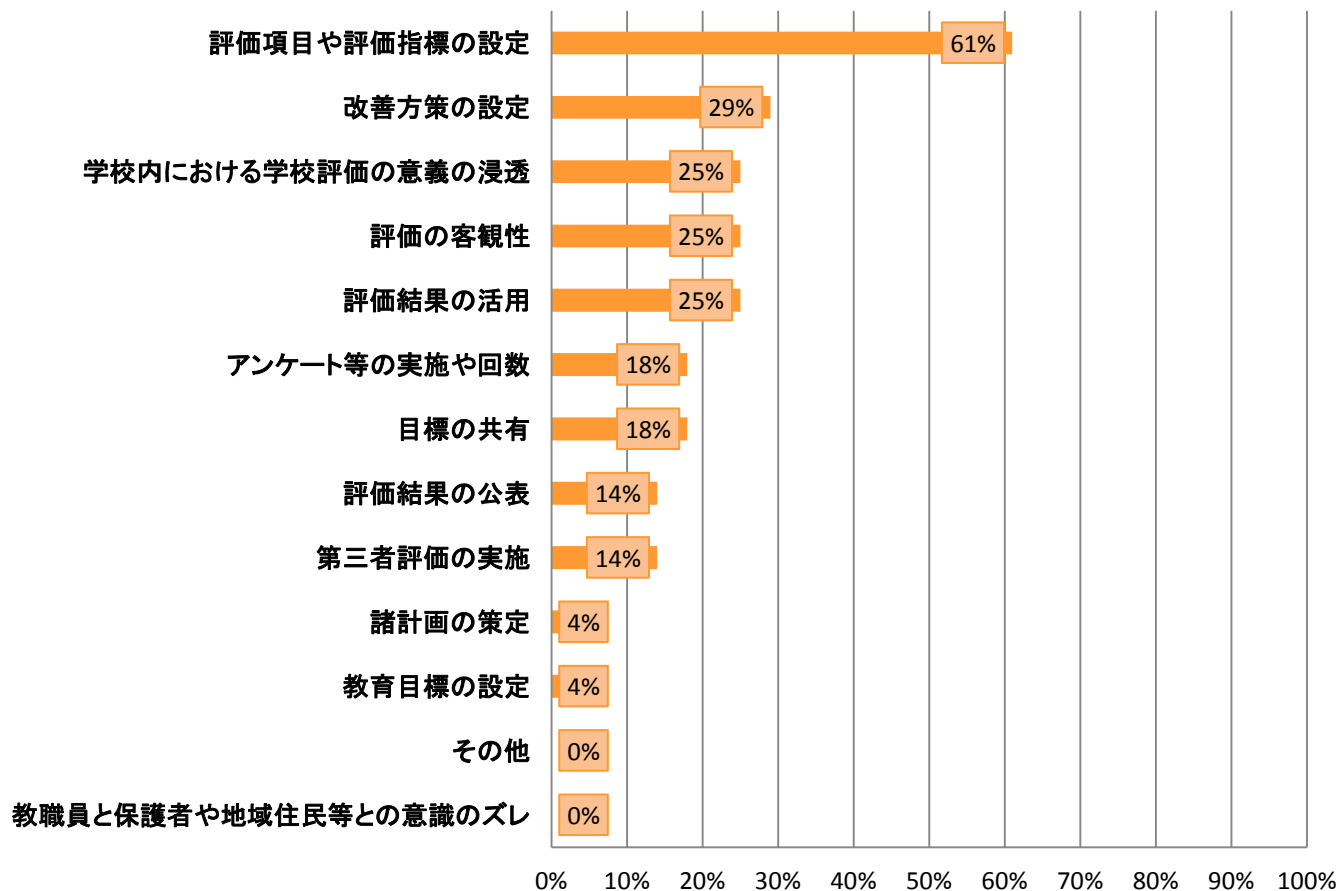


小学校・中学校・小中学校・高等学校

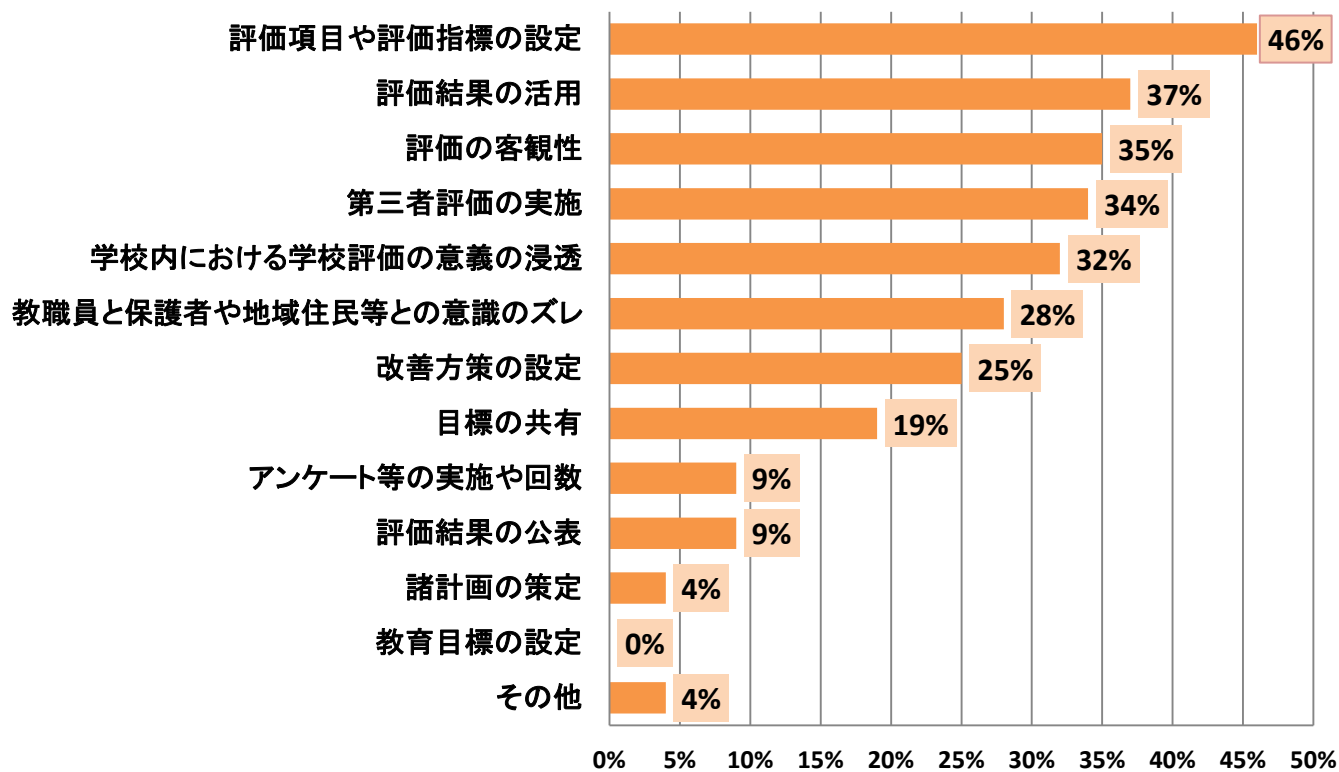


【学校評価をすすめる上での課題】

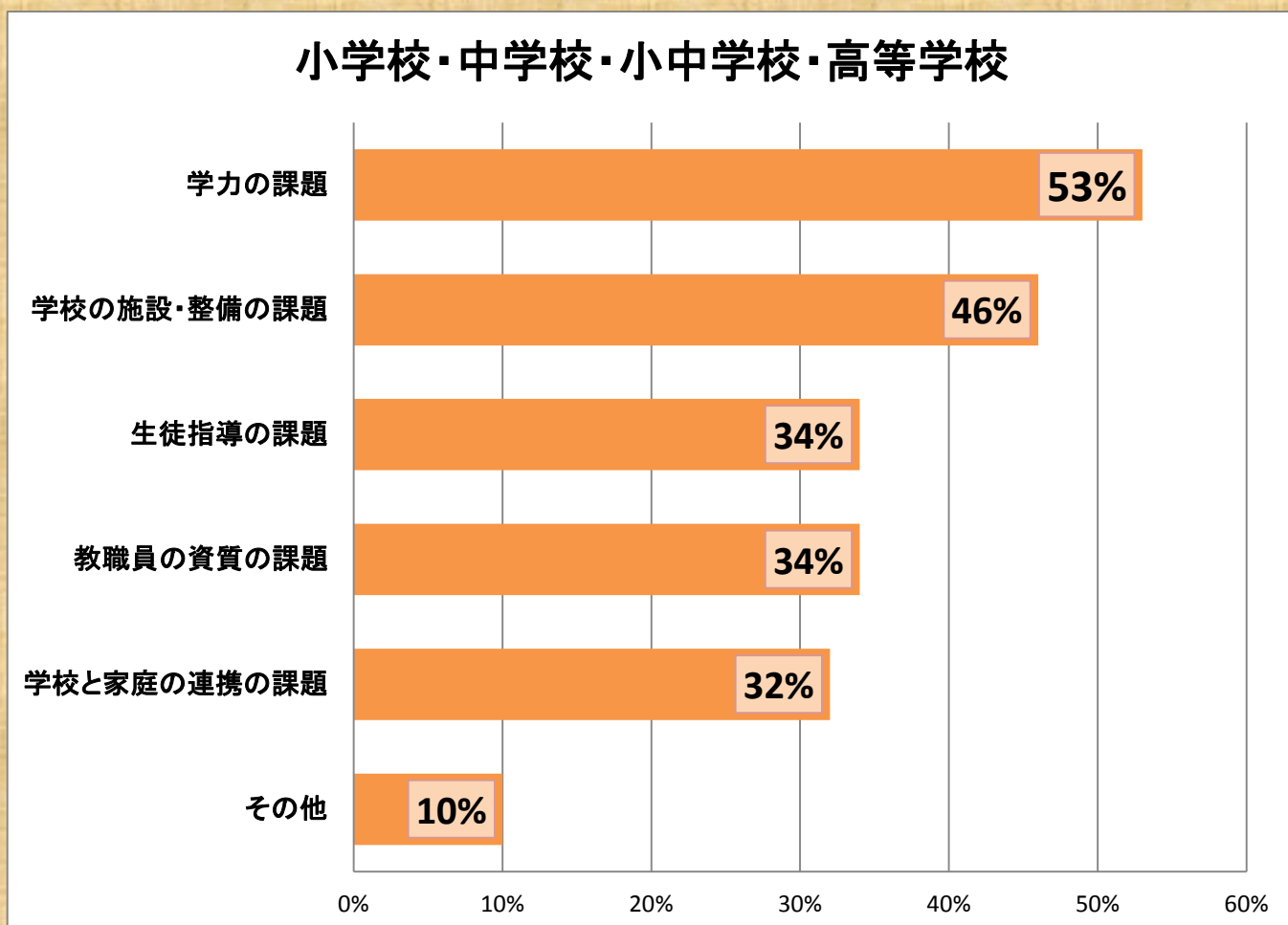
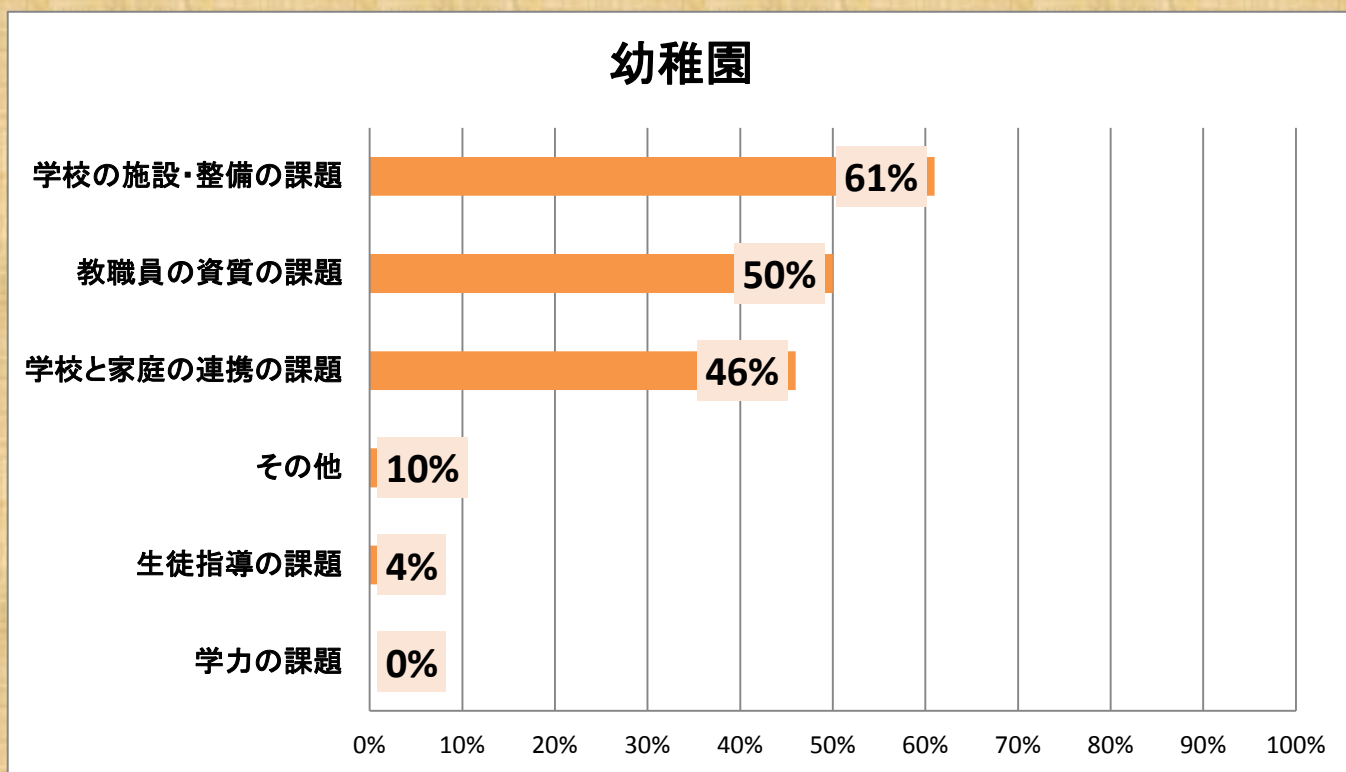
幼稚園



小学校・中学校・小中学校・高等学校



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】

〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・子どもの様子や課題などについて伝えるスキルを磨くなど、OJT の充実。
- ・学校だよりやホームページで児童の様子を知らせる。家庭でも児童とのコミュニケーションを大切にしよう働きかける。
- ・定期的に実施する「学校評価」だけでなく、日頃から家庭との情報交換や連携を密にする。
- ・学校運営協議会での提案として、学力は学校・しつけは家庭という役割に意識して取り組む。
- ・立場の違いを互いに理解し、目標に向かって協力し合う。
- ・保護者との連携を密にして、保護者の悩み・問題点の把握に努める。解決するために PTA、地域と連携して取り組んでいく。

〔生徒指導に関すること〕

- ・保護者への啓発と職員の体制作り。
- ・市教委・関係機関との連携、外部人材の活用等。
- ・自尊感情を伸ばし意欲ある学校生活に改善する。
- ・児童生徒に関する連絡会を適切に持つことができる体制の確立。
- ・組織的に対応するために、報告会と研修会を定期的に行っている。
- ・関係機関とより一層の連携。生徒に対するこまやかな指導。保護者の理解を求める活動。
- ・カウンセラー配置の充実。
- ・子育てについて共通理解をしながら取組を進める。

〔学力に関すること〕

- ・授業研修による授業改善と家庭学習の取組のすすめを行う。
- ・放課後学習教室などの取組をおこなう。
- ・基礎学力向上にむけた、地域ボランティアとの連携をおこなう。
- ・読書量を増やす取組。
- ・「コツコツ力向上プロジェクト」や「ICT教育」を取り入れ、自尊感情を高めることにより学習意欲や規範意識を高めようと取り組んでいる。
- ・学年により、多少の違いはあるが、学力の二極化がある。そのため、課題を共通理解するとともに、基礎学力の定着に向け、支援の方法などについて検討する。
- ・低学力傾向の克服を目指す。意欲が持続する学習指導法の研究をし続けていく。
- ・ユニバーサルデザインの授業や ICT の活用等を進めていきたい。
- ・今年度も行った学力学習状況調査の結果をもとにした、全学年での学力向上に向けての取組をさらに継続して進める。本校で継続して行っている朝の 15 分の学習時間で、国語、算数を中心とした基礎基本の定着をさせる。

〔施設・整備に関すること〕

- ・環境整備を計画的に行えるように地域や保護者の方々等の理解を得て協力体制を整えていく。
- ・学校 ICT 環境の充実等教育設備を新しくする。
- ・学校の施設・設備の老朽化に対しては限られた予算を計画的かつ有効的に活用して対応していきたい。
- ・環境整備を進めるために花壇等の整備をボランティアによる取組を行う。

4、学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・保幼小連携の内容をより充実させる。教師間同士の連携の強化を図る。
- ・地域の特色と教育力をいかし、人とのかかわりを大切にしながら『生きぬく力』を育む保育内容の工夫。
- ・体力向上に向けた内容をより充実させた研究主題に向けての取組方法の工夫。
- ・地域・家庭・園がビジョンを理解し、協力しながら進められるようにする。園児の声・保護者や地域の方の声・職員の声聞き、みんなで取り組んでいきたい。
- ・教職員の資質向上を図り、保育の力量を高める研修体制づくり。
- ・人権教育の推進と生徒指導体制の再確認を行う。
- ・地域との関係は良好である。生徒の考えがすこし幼い面があるので、未来を見据えたキャリア学習の確立を図るようなビジョンにしていきたい。
- ・生徒・保護者による評価は非常に高い数値で推移しているが、21世紀のグローバル社会に対応できる人材の育成のために、課題解決力・コミュニケーション能力・表現力の向上の一助となるアクティブラーニングを取り入れた授業実践を一層深化させる必要がある。
- ・ビジョンの見直しというより、今のビジョンをより具体化具現化する方策を職員で検討していく場が必要だと考える。
- ・信頼される学校として、保護者のニーズを取り入れたビジョンにしていきたい。
- ・小中一貫教育の取組内容の点検および見直しを行うことにより、更なる充実を図る。
- ・あいさつの徹底、美化活動・奉仕活動・ボランティア活動の推進、キャリア教育の推進、教職員の意識づけ。
- ・学校としてのビジョンと中学校区としてのビジョンを、児童や地域の実態に即した形で摺合せ、小中の取組がつながっていくよう改善を進める。
- ・小中一貫教育における世界遺産・地域遺産の教材研究を深めると共に、教材を見直し、マンネリにならず、教職員の力量を高める為の研修を多くもつ。中学校との交流を深め、教員研修の充実を図る。英会話科の教材開発と授業の充実。
- ・「本に親しんでいる」かを問う内容結果が低いことから朝読書タイムの更なる充実、図書館教育の発表を念頭に入れて臨みたい。
- ・「グループ活動を取り入れた学習課題の設定」の部分を見直していく。個々の教員の授業力向上のために授業研究・研修の計画・取組を見直していく。
- ・地域に開かれた学校をめざして、長年取り組んできた。その結果、ボランティア活動や放課後子ども教室など、地域からの協力は十分いただいている。これからは、逆に学校が地域に対してどんな恩返しができるか考えていきたい。そのことを学校ビジョンに盛り込みたい。